

【大子町】 校務DX計画

【現状】

大子町では、令和年からペーパーレス化に取り組んでおり、一定の成果は出てきているが、「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検の結果、クラウドツールの活用、FAXでのやり取りの廃止、押印の見直し、校務支援システムへの名簿情報等の不必要な手入力作業の一扫が一部で進んでおらず、校務の効率化・完全なペーパーレス化へは課題が残っている状況である。

「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言を踏まえても、これらの課題について早急に解決に向けて検討が必要と捉えている。

【課題】

(1) クラウドツールの未活用・次世代の校務システムの導入に向けて

大子町では、校務支援システムを用いて保護者への連絡やお便り等のやり取りを行っている。また、紙の資料や印刷等も削減する取組を行ってきた。

一方で、紙媒体の資料の印刷や配布等が一部残っており、完全なデジタル化には至っていない状況である。

(2) FAXでのやり取り・押印の見直し

学校ではFAXでのやり取りを基本的に廃止する方針としているが、業者とのやり取り等で一部FAXが使用されている状況である。また、押印についても、現場において出勤簿や指導要録等で押印の文化が残っているのが現状であり、廃止の方向に消極的な部分がある。

(3) 校務支援システムへの不必要な手入力作業の一扫

生徒の欠席・遅刻等に関しての保護者からの連絡はアプリケーションを用いて報告してもらっており、校務支援システムとも連携されている。

一方で、学習系端末から校務系端末にデータを移行しており、余計な業務が発生している。また、USBを使用する際の事務手続きによる業務負担の増加、USBの紛失リスクといったことも懸念される。

【取組方針】

(1) クラウドツールの未活用・次世代の校務システムの導入に向けて

現状や課題を踏まえ、令和6年度末に校務システムをクラウド化した。体制や運用方法を整備し、クラウド化やペーパーレス化を推進していくことで、教職員の日常業務の負担軽減をより一層進めていく。

(2) FAXでのやり取り・押印の見直し

引き続き、FAXは原則使用しない方針とし、業者等とはメールを使ったやりとりなどで対応できないかを継続的に働きかけていく。

押印については、無くせないもの、無くせるもの又は代替できるものを区別し、押印の文化をなくしていく。県や教育委員会の制度によるものの場合、関係者と協議して見直しを図っていく。

(3) 校務支援システムへの不必要な手入力作業の一掃

令和6年度末にクラウド化した校務システムを活用し、より一層、不必要な手入力作業の一掃を進めていく。また、運用を開始した校務システムの利用状況や現場の声等を確認し、課題があれば随時対応していく。

なお、校務系と学習系のネットワークの統合については、システムの次回更新のタイミングに向けて検討し、教職員の端末を1台にすることで業務負担の軽減を図っていく。